



■クラブ創立：2000年1月13日  
 ■例会日：第1・第3水曜日（12：30～13：30）  
 ■例会場：中部コミュニティセンター  
 TEL0475-73-3337 FAX73-4360  
 ■事務所：〒299-3251  
 大網白里市大網450-6 ユアサビル2階  
 TEL0475-70-0200 FAX70-0220  
 ■会長：小倉 光夫 幹事：石田 英世  
 ■広報・公共イメージ向上委員会  
 委員長 大越 将司・会報担当 石田 英世

2021年10月6日(水)

第23巻 第 2号

通巻第967号

<http://www.oamirotary.com>  
 E-mail rc@oamirotary.com

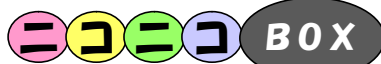


奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



ガバナー公式訪問

点 鐘 会長 小倉 光夫  
 ソング 奉仕の理想・四つのテスト  
 会長挨拶 会長 小倉 光夫  
 幹事報告 幹事 石田 英世  
 プログラム



高野前会長、板倉前幹事より  
 新年度おめでとうございます。  
 前年度ありがとうございました。  
 小倉会長、石田幹事より  
 1年間宜しくお願い致します。  
 大越 将司 会員  
 小倉・石田年度スタート、おめでとうございます。  
 毎年のことですが、新年度会長から一番に誕生日祝いをいただけること、誇らしく思います。  
 ありがとうございます。

例会日	7月7日	6月30日
会員数	30	30
出席	21	21
欠席	9	9
MU	0	1
免除	3	3
出席率	80.00	83.33

### 会長挨拶

小倉 光夫 会長



皆さん、こんにちは。  
 2021-2022 年度 会長を務めさせていただきます小倉光夫です。  
 今年度のRI 会長シェカール・メータ氏のテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」です。  
 そして”奉仕とは、自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃である”と、おっしゃっております。  
 自分もこのテーマを1年間実践していきたいと思っておりますので皆様のご協力をお願い申し上げます。  
 私が1年間会長を務めさせて頂く上で、次の点に力を入れ、活動していきたいと思っております。

- ・会員増強  
(ここ数年は30名で推移しています、減らさずに増やして行く。)
- ・広報活動  
(奉仕を通じ広く周知させていく。)
- ・親睦活動  
(会員の相互理解を深め、笑顔を絶やさない例会作り。)
- ・継続  
(会員卓話も含めロータリー諸先輩方の経験を若い世代へ伝える。)

また、本年度もスリランカ国への支援、ネパール国への識字率向上支援、子ども食堂への協力、米山奨学生の受け入れを継続していきます。

### 奨学金授与式



会長より、ニルシカさんへ7月奨学金が手渡されました。

私は千葉科学大学危機管理学部危機管理学科のニルシカと申します。いつも皆様方には大変お世話になっております。毎月多額の奨学金を頂くことで、アルバイトを減らし勉強に集中することが出来るようになりました。本当にありがとうございます。



①夜間移動例会の費用負担について  
 (※前年度夜間例会のみクラブ負担)  
 今年度は12月までクラブ負担

②会計報告 決算書作成中(板倉会計)  
 加藤監査役と高野前会長・板倉前幹事立会いにて近日監査会開催予定  
 7/8(木)開催

③寄付金のお願い  
 ロータリー財団  
 出席困難な会員名で特別寄付をするか  
 ※前年度 花澤正明会員  
 2021-22 望月昭宏会員  
 ロータリー米山記念奨学会  
 6/28 板倉達夫会員預託済み

④ 大網白里市主催海行事(海開き)中止

⑤ 大網白里市の産業文化祭 中止 絡有

\*セミナー会議及び今後の行事予定\*

米山奨学生・カウンセラーセミナー

日時: 2021年7月3日(土)

15:00 受付 15:30~セミナー

17:00~18:00 懇親会

会場: 三井ガーデンホテル千葉

登録料: 1人 6,000円

カウンセラー佐藤会員出席

次回第2回理事会開催予定

8月4日(水) 11時より

場所: 中部コミュニティセンター 予定



大網白里市 市長 金坂 昌典 様



## 『住みたい 住み続けたいまち』

### づくりへの挑戦



ただいま、ご紹介にあずかりました、大網白里市長の金坂でございます。本日は、大網ロータリークラブの例会にお招きいただき、ありがとうございます。また、皆様には、日頃より、さまざまな面で市政にご理解・ご協力を賜っておりますことに対し、心より御礼申し上げます。そして、本日は、『住みたい 住み続けたいまち』づくりへの挑戦」と題しまして、講話をさせていただくこととなりました。時間で申しますと約30分程ということになるかと思います。限られた時間ではございますが、よろしくお付き合いいただければ幸いです。

さて、時のたつのは早いもので、平成から令和へと新たな時代が到来してから、3年目を迎えることとなりました。大網白里市も、平成25年1月の市制施行から数えてすでに8年、また、私個人といたしましても、就任から10年が過ぎ、一つの節目を迎えたところでございます。この10年間という期間を振り返りますと、わたくしにとりまして、何もかもが常にチャレンジの連続であったような気がいたします。市制へと移行後、市民福祉の向上や将来の市の発展を見据えた都市基盤の整備など、大網白里市総合計画の目指す将来像「未来に向けてみんなでつくろう!住みたい・住み続けたいまち」の実現に向け、さまざまな施策を着実に進めてまいりました。これらの施策が、今、市の未来にむけた具体的成果として実を結びつつあるように感じております。こうした中、本市のまちづくりの基本的な方向性を示す「大網白里市第6次総合計画」がスタートいたしました。この第6次総合計画のもと、地方創生など国・県の政策動向を注視しながら、市民生活の安全・安心と地域の活性化など、将来の市の発展を見据えた事業に取り組んでまいり所存でございます。

本日は、せっかくの機会でございますので、これまで計画に掲げてきた10年間にわたる各種施策の成果を振り返りつつ、本市が目指していくこれからのまちづくりの方向性について触れてまいりたいと思います。なお、時間の都合等もございいますので、中でも特に重要な市政の3つの柱である「子育て支援」、「災害対策」、「都市基盤整備」についてお話をさせていただきたいと思っております。また、せっかくの機会でございますので、新型コロナウイルスに関するワクチン接種の状況などについても、併せてお話させていただければと考えておりますので、よろしくお申し上げます。

それでは、早速、本題に入らせていただきます。

まず、一つめ「子育て支援」についてでございます。

皆様もご存じのとおり、現在、我が国は、他の先進国と比較し、少子化・高齢化の進行が際立っており、大きな社会問題となっております。現時点での最新のデータで申しますと、2019年の日本の合計特殊出生率は1.36とされておりますが、現状の人口を維持していくためには、これを2.08にまで高めなければならない、つまり、少なくとも2人の子どもを産み、育てていかなければならないと言われておりますので、この現在の1.36という数字がいかに危機的な数字であるか、おわかりいただけることと思っております。

本市の場合で申しますと、市外から新たに本市に越してくる方々なども毎月相当数存在するため、人口の減少は今のところ最小限度に抑えることができておりますが、それでも、市内で生まれる新生児の数は年々減少傾向にあり、早急な対策が必要とされております。

しかしながら、この少子高齢化がここまで進んでしまった原因は、社会現象、あるいは時代の流れ、といったしまえばそれまでですが、その中には実に様々の要因が見え隠れしており、一概に、ここをこうすれば解決するというものではございません。男女ともに晩婚化が進んでいること、あるいは女性の社会進出の増加や、核家族化により子どもの面倒をみる祖父母がいない、さらには子どもを育てる金銭的余裕がないなど、その理由は各家庭ごとに実に様々であろうかと思っておりますが、こうした方々が安心して子どもを産み、そして育てることができる環境作りというものを、行政として真剣に取り組んでいかなければならないと実感しているところでございます。子どもを産み、育てたい夫婦にとって、いま、何が必要なのか?本市をはじめ、各自治体では、これまでも、3人目の子どもを産んだ夫婦に対し、助成金を交付するなど金銭的な支援を行ってまいりましたが、それだけでなく、子育て支援に関する総合的な支援施設を整備し、安心して子育てができる環境作りに取り組むことが、今の本市にとって必要なのではないかと考えました。こうした取り組みの結果、平成31年に増穂地区に完成したのが「子育て支援館」でございます。





## 7月誕生祝い



大越 将司 会員

S50 (1975) 7月 29日

おめでとうございます。

## 例会風景



この施設では、主に5つの事業を中心に行っております。

子育て支援センター「マリルーム」は、子育て中の保護者や子ども達が自由に利用でき、保護者間の交流もできるようになっています。

一時預り保育は、保護者が病気や育児疲れなど、一時的に家庭での保育が困難になった場合に、お子さんをお預かりいたします。

小規模保育は、0歳・1歳のお子さんをお預かりする定員19名の保育施設です。

きりん幼児教室は、発達の気になるお子さんの療育・適応訓練を行うとともに保護者の相談にも対応しています。

そして、ファミリー・サポート・センターは、子育ての支援を必要としている方と、支援ができる方の仲介を行う、いわば相互支援の場を提供する施設となっております。

こちらが子育て支援館の外観となります。右上にある建物は増徳保育所であり、保育園との一体的な利用が可能となっております。

さらに、昨年は、この子育て支援館に続き、みどりが丘地区に「子育て交流センター」をオープンするに至りました。

子育て交流センターは、児童館、子育て支援センター、学童保育の3つの機能を主に担う施設でございます。子育て支援館で行っている5つの事業と併せ、本市の子育てを総合的に支援することを目的としております。

これが子育て交流センターを正面から見た写真でございます。

このように、かなり横に長い造りとなっておりますが、このうち、向かって左側が「学童保育エリア」、真ん中が「児童館エリア」、一番右側が「子育て支援センター」というように、施設全体を3つのエリアに分け、運営を行っております。なお、それぞれのエリアは施設内でつながっており、子どもたちが自由に行き来できるようとなっております。



建物の内部は（右写真）このようになっております。

このうち、子育て支援センターについては、既に子育て支援館で好評をいただいております子育て支援センター・マリルームと同様の機能を有するものであり、子育て世代の情報交換や交流の場として広く利用いただいております。

児童館は、子ども達に楽しい遊びの場を提供する施設です。遊びを通して子ども達の成長を見守るとともに、定期的に講座や行事等も行っております。

学童保育は、小学校の下校後に家庭保育が困難な児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供しております。

両施設に共通しているのは、子育てをしているお母さん方の様々な悩み事、子育てをする上で困っている問題などに対し、そのお母さん方をサポートしつつ、一緒になって問題を解決していくという点に重きをおいていることが最も大きな特徴ではないかと考えております。

続いて、二つめの柱「**市民の安全の確保**」についてでございます。

私たちが住む千葉県は、穏やかな気候に恵まれており、これまで、大きな災害といえは、私の記憶する範囲では、昭和62年の千葉県東方沖地震、また、過去の記録からひもとくと、元禄の大津波など、いくつかの事例はあるものの、大規模な災害とは比較的無縁な、非常に住みやすい地域でございました。「でした」と、いま、あえて過去形で申しましたが、これまでの安全で住みやすいという認識を打ち破ったのが、一昨年9月、10月に県内全域に大規模な被害をもたらしました、台風そして大雨による被害であります。本市では、これまで、地域防災計画のもと、小中学校の耐震化、備蓄食料や備蓄物資の配備や、消防施設の整備、ソフト面の対策として各種防災訓練の実施など、災害への備えとしてさまざまな対策を講じてまいりましたが、世界的に異常気象が指摘されている昨今、同様の災害が、また、いつ何時、襲わないとも限りません。

こうした中、この災害の被害を風化させることなく、むしろ今後の災害に備えての教訓とするため、本市では、災害被害の収束後、直ちに、職員による4つの対策部会を立ち上げ、情報の収集・伝達、避難態勢・避難場所の運営、停電対策、断水・災害ゴミ対策の各部門ごとに検証作業を行うとともに、その検証結果に基づき、対策を講ずることいたしました。

このうち、一部については既に対策を完了したところであり、それらのうちのいくつかを挙げますと、災害避難時における各避難施設の備品類等の整備、また、新型コロナウイルスの感染を防ぐための対策についても、さまざまな備えを講じたところでございます。また、海に接している本市の場合、津波による被害というものも、常に想定しなければなりません。



7/3 (土) 開催

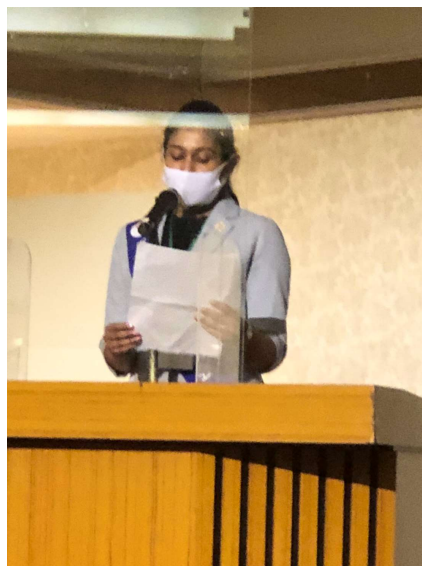
米山記念奨学委員会

カウンセラー・米山奨学生研修会

写真提供：佐藤 廣子 カウンセラー



佐藤廣子カウンセラー



米山学友 ナディーシャさん



当クラブ受入れ奨学生

ナルシカさん

東日本大震災の際は、幸い、津波による大きな被害はございませんでしたが、この千葉県は、これまでもたびたび大規模な地震に見舞われており、新しいものでは千葉県東方沖地震、古くは関東大震災、さらに歴史をひもときますと、慶長9年(1604)、延宝5年(1677)、元禄16年(1703)の3回、俗に房総3大地震といわれる大地震が発生しております。なかでも、元禄16年のものは、マグニチュード8.2の規模をもつ巨大地震であったといわれており、房総だけでなく、関東一円、江戸、小田原にも大きな被害をもたらしたと伝えられております。

また、このときの地震では、併せて大規模な津波も発生し、九十九里地域で2,387名、この被害人数は記録として明らかとなっている数であり、実際のところは、これを上回る人数にのぼると思われませんが、このときの津波で亡くなっております。

地震大国であり、さらに周囲を海で囲まれている我が国の場合、こうした津波による被害というものへの対策というものは、重大な要素を占めてまいります。

避難タワー



四天木築山



そのため、本市では、津波の被害から市民を守るため、津波避難計画・津波避難施設整備計画を策定し、対策に力を注いでまいりました。平成29年には津波避難タワー、また、これに続く津波避難施設として、平成31年には築山が完成するに至ったところでございます。こちらが、平成29年に完成した津波避難タワーです。収容人数は、約100名となっております。階段及びスロープにて屋上に避難できるようになっております。

また、施設の屋上には、ソーラー照明灯、デジタル簡易無線機、非常用電源などの設備を備えており、屋上に備え付けてあるベンチには、食料や水などの防災用の備蓄品を保管しております。

次に、(写真右)こちらが平成31年に完成した築山となります。避難タワーと同様、収容人数は100名となっております。ソーラー照明灯などの設備は避難タワーと同様になりますが、避難タワーが、屋上のベンチに備蓄品を収納しているのに対し、築山のベンチは、座面部分を開きますと「防災用のかまど」としてご利用をいただけるようになっており、備蓄品は、写真右側の防災備蓄用倉庫に保管するようになっております。

なお、津波避難タワーは、防災第1号公園、築山は防災第2号公園と位置づけ、津波発生時の緊急一時的な避難施設として地域住民の皆様の命を守る砦となる一方、日常的に開放し、日頃は、地域住民の皆さんの憩いの場として、ご利用いただいております。

ただいまご紹介した施設が、本来の目的で使われるような事態にならないことが、最も望ましいところではありますが、災害というものは、いつ、いかなるときに起こるか分かりません。また、防災対策というものは、ある意味で「これでよい」というゴールラインがない取り組みでもあります。万一の災害発生時に備え、現状の中でできることを、一つひとつ見える形にしていくこと、この終わりのない防災対策に対しては、不断の努力が必要であり、現状に満足することなく、より一層の対策を推進し、安全で安心なまちづくりを進めていくことが大切である、と私はこのように考えております。

そして、三つめ「都市基盤整備」についてでございます。

本市は、JR大網駅、永田駅と、市内に2つの駅を有しております。その中でも特に、大網駅については、外房線と東金線という2つの路線が交差する箇所であり、さらに東京への通勤圏内にもあることから、これまで、みずほ台、ながた野、みやこ野、季美の森、みどりが丘といった新興住宅地を中心に開発が進み、本市の人口増加の要因ともなっておりました。しかしながら、この大網駅の周辺部については、本市の中心市街地の中にあるという立地条件に恵まれながら、道路などの都市基盤整備の立ち遅れから立地条件を活かせず、幹線道沿いにある店舗のほかは、住宅や駐車場といった土地利用にとどまっておりました。一方、地区内の道路は駅への進入路にあたり、朝夕は通勤の車両が集中し、交通渋滞を引き起こしている状況もあり、中心市街地の拠点としての都市機能整備と道路網の整備が強く求められてきた地区であります。こうした課題を解消し、駅を中心とした地域の賑わいと活性化を図るため、市では、大網駅前における土地区画整理事業の推進に精力的に取り組んでまいりました。

そして、平成30年11月、この土地区画整理事業の総仕上げとして、区域の中心をはしる「大網駅東中央線」が完成したところでございます。この路線沿いには、市民の皆様様の憩いの場として、新たに公園も整備しており、すでに複数の店舗が出店するまでにいたっております。この駅前の区画整理事業そのものとは異なしましては、まだ、換地処分などの事務手続、さらにNTTによる電線共同溝の整備というところがまだ若干残ってはございますが、足かけ15年以上にわたり行ってまいりました本事業も、ここによりやく完成の日の目を見たというところであり、駅前の活性化を図りながら、同時に交通渋滞の緩和にも大きく寄与しているところでございます。

そして、この駅周辺と併せて、本市のなかでも重要なポイントとなりますのが、国道

①ガバナー事務所夏季休業のご案内

下記の通りガバナー事務所・ガバナーエレクトロ事務所  
の夏季休業についてお知らせいたします。

記

期 間：2021年8月13日（金）～  
2021年8月15日（日）

緊急の場合は 下記幹事長宛てにご連絡をお願い申し上げます。

2021-22 年度地区幹事長 佐々木高治  
携帯 090-3221-3139

②2021年8月のロータリーレートは、1ドル=110円と本部より連絡がありました。

<https://my.rotary.org/ja/exchange-rates>

リンク先の、My ROTARY の「[国際ロータリー為替レート](#)」への情報の掲載が遅れており、ご不便をおかけして申し訳ございませんが、こちらにも近日中に更新される予定です。

ご寄付は、日本事務局に着金した月のRIレートが適用されます。  
月末にお振込みされる際は十分にご留意ください。

国際ロータリーで行っている世界的な財務管理システムの移行にあたり、恐れ入りますが7月以降にいただいたご寄付はMy ROTARY からご覧いただける各種レポートへの寄付記録等の反映が遅れが生じております。

また上記の影響により日本事務局から発送している寄附明細、認証品等のお届けまで1、2か月お時間をいただく見込みでございます。

なお、1月～6月にご寄付をいただいた個人寄付者の皆様への確定申告用の領収証は、8月中旬頃、各ロータリークラブ宛にお送りする予定です。

128号沿いの地域でございます。この国道128号沿いは、農業、特に水稻の栽培が活発に行われており、県から「第一種農振農用地」にも指定されている地域でございますが、この国道128号沿いは交通の要衝でもあり、この地域一帯のもつポテンシャルを考慮いたしますと、ここを開発することにより得られる経済的効果というものは、市全体の活性化という点で非常に大きな意義があるものと考えました。

ただ、ここで問題となりますのが、先ほど申しました農振農用地の指定でございますが、この指定を受けると、むやみに開発を行うことが制限されてしまう・・・、これが大きな障害として立ちばかりました。これをなんとか回避するため、「市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画運用基準」というものを策定し、農振地域に指定されている土地であっても開発行為を行うことができるよう手立てを講じた次第でございます。・・・と、こう口で申してしまうとすごく簡単なことのように思えるかもしれませんが、しかしながら、ここに至るまでには、県との再三再四にわたる調整やさまざまな交渉など、規制や課題を一つひとつ、地道にクリアしていかなければならないなど、実際問題として目に見えない部分で非常に大きな苦勞がございました。

また、この運用基準と併せ、本市の企業誘致条例、この条例自体は昭和の時代に作られたものでございますが、これまでこの条例を適用した事例はなく、なかば有名無実化したような条例でございました。この企業誘致条例を見直し、市内進出企業への奨励措置を講ずること、いわば「土地利用方針・地区計画運用基準」と「企業誘致条例」との二本立ての土台を設けて、各種誘致活動を行ったところであり、これにいち早く着目していただいたのが、新潟県に本社を持つ「株式会社コメリ」でございまして、幾度かの折衝を経た後、本市への参入を決定していただきました。その結果、昨年、大規模小売店舗「コメリパワー大網白里店」としてオープンしたところでございます。

このコメリの進出を機に、今後も、様々な企業にこの制度を利用いただくことで、128号沿いはもとより、市内経済全体の活性化、さらには市内での雇用の確保につなげてまいりたいと考えております。続きまして、こちらをご覧ください。

こちら、千葉県、そして大網白里市を示した地図になります。

先ほど、地区計画運用基準の策定、企業誘致条例の見直しについて、お話をさせていただきましたが、さらにもう一点、企業進出を促す取り組みが、スマートインターチェンジの設置でございます。

企業活動を行う上で、商品の開発、販売、宣伝などとともに欠かすことができないのが、物の流れ、つまりは「物流」であります。

本市の地勢的な強みとして、東京都圏に直接通ずる鉄道の路線が確保されていること、また、陸路におきましても、東金有料道路を経由することで千葉・東京方面に速やかにアクセスできるという、地勢的な強みがございました。

さらには、空路につきましても、羽田・成田にほど近いという大きなメリットがございましたが、残念ながら、この羽田・成田の両空港を有効利用できるほどには、道路網が整備されていなかった、というのが、これまでの課題であったわけでございます。

しかしながら、平成25年、圏央道・東金-木更津間の開通を機に、この方面についても、大きな可能性が広がってまいりました。

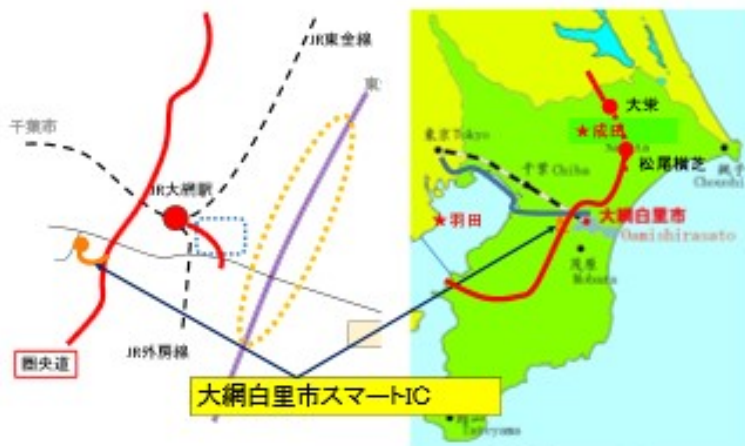
こちらの画面を見ていただければと思いますが、この圏央道は、羽田・成田の各空港を活用するには、まさにうってつけと言える路線でございます。また、アクアラインを通じ、横浜・川崎方面に抜けることができるという大きなメリットがあることから、企業活動だけにとどまらず、都市部からの観光客の誘致にも、大きな効果が期待できます。

これは、本市から自家用車で横浜・川崎方面への通勤が可能になるということでもあり、本市への移住・定住の促進にもつながるなど、さまざまな可能性がございます。

そして、令和6年度には、現在、工事を行っている圏央道・大栄-松尾横芝間も開通となる見込みです。この区間が開通となりますと、県外へのアクセスが大幅に向上するため、より多くの方々がこの圏央道を利用されることになると思われます。

こうした様々な条件を考慮した末、先ほど申しました大網駅周辺、国道128号にもほど近い位置にあり、近くに観光スポット・小中池公園のある小中地区にスマートインターを誘致することといたしました。

こちらが平成31年3月に開通したスマートインターの全体像でございます。





## 第7グループ会長幹事会

8月20日に予定されていた第7グループ会長幹事会ですが、コロナウイルス感染拡大による千葉県緊急事態宣言発出に伴い、中止といたします。

この地区も他に変わらず日々感染者が増加しており、各RCの皆様にはくれぐれもご自愛の程お願い申し上げます。

以上よろしくお願ひいたします。

第7グループガバナー補佐 秋葉芳秀様

ガバナー補佐幹事 徳倉基宏様

さて、ここまで、本市の取り組んでいる3つの施策についてお話してまいりましたが、多少方向性を転じまして、最後に、新型コロナウイルス関連のお話、その中でも特にいま、喫緊の課題とされておりますワクチン接種のお話を少しさせていただきます、本日の講話を終えたいと思います。

今年に入ってから、国内においても感染力の高い変異株が相次いで確認され、また、それに応じるかのように、感染者数も急激に増加する事態となりました。

東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象に4月25日に発令された3度目の緊急事態宣言は、その後、地方の主要都市の感染増に伴い、北海道、愛知、岡山、広島、福岡、沖縄の10都道府県に拡大され、また、本県を含む8県が、まん延防止等重点措置の実施区域に位置付けられました。一時は一日あたり8000人に迫る状態が続いていた国内の新規感染者数ですが、(感染者数の下げ止まりや、一部地域におけるリバウンドの兆候など、やや不安要素は残るものの、)ここに来て若干落ち着きを取り戻し、開催が危ぶまれておりましたオリンピック・パラリンピックにつきましても、どうやら開会式を迎えられる見込みとなりました。この新規感染者数の拡大抑制につきましても、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置下における、国民の皆様のご様々なご努力の結果であることはいまでもありませんが、それに加え、4月以降、本格化し始めたワクチン接種の効果が徐々にあらわれてきているのではないかと、このように考えている次第でございます。このワクチン接種でございますが、本市におきましても、5月24日から個別接種を、6月12日より集団接種を開始したところであり、このうち、集団接種につきましても、できるだけ多くの方々に速やかに接種していただけるよう、保健文化センター、大網白里アリーナ、農村環境改善センターと、大網、増穂、白里のそれぞれの地区ごとに接種会場を設けるとともに、土・日の国保大網病院においても集団接種を実施しております。なお、接種の日程や予約方法等につきましては、5月27日付けの新聞折り込み等により市民の皆様にご案内させていただいたところでございますが、予約時における電話回線やシステムの混乱を避けるため、年齢層を複数の区分に分けた上で、より高齢の方々から段階的に予約の受付を行っております。

また、当面は、高齢者の方々への接種が優先されることとなりますが、国・県における大規模接種会場の設営や、さらに勤務先における職域接種なども拡大していることから、12歳以上の市民の方々すべてに対し接種券の送付を行ったところでございます。

今日お越しの皆様の中にも、既にワクチンの接種を受けた方もいらっしゃるのではないかとと思いますが、市といたしましても、引き続き、山武郡市医師会をはじめとする医療関係者の皆様のご協力をいただきながら、市民の皆様が一日でも早く接種を受けられるよう、鋭意努力してまいります。

さて、そろそろお時間のほうが残り少なくなってきたようでございます。

今日は、「子育て支援」、「災害対策」、「都市基盤整備」を中心に、コロナワクチンの接種の話なども交えながら市の施策をご紹介させていただきましたが、これらはいずれも、本市が進めている取り組みの中の一例でございます。

そして、子育て支援には、少子高齢化時代を迎えての人口維持・増加策、災害対策には、安全・安心の提供、都市基盤整備には、市内経済の活性化や雇用の促進、と、それぞれに目的は異なりますが、いずれも、本市の目指す将来像「未来に向けて みんなでつくろう 住みたい・住み続けたいまち」という共通のキーワードに基づいて進めているものでございます。もちろん、これらの事業の実現にはかなりの予算を必要といたします。また、その一方で、特に人口減少や少子化などへの取り組みは、その成果がなかなか形として目に見えてこない、という部分もございます。ただ、だからといってそこで目をそむけてしまつては、10年先・20年先、100年先の大網白里市の未来は非常に暗いものとなってしまつてしまうに違いありません。

私たちの子の世代、さらには、孫の世代に至るまで、「住んで良かった、住み続けてよかった」と思えるよう、私も、引き続き身を粉にして、勤めをしてまいりたい、そのように考えている次第でございます。

今後も、大網白里市をより快適で魅力あふれるまちにするため、市民の皆様とともに市政に取り組んでまいり所存でございますので、ロータリークラブの皆様におかれましても、引き続き市政にご協力くださいますようお願い申し上げます。

むすびに、大網ロータリークラブの今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝・ご多幸を祈念いたしまして、私の講話を締めくくらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。